

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（10月①）

なす：うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロバティフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤(ねぎなど)、ベネビアOD(ねぎなど)、ロムダンフロアブル(ねぎ、花き類・観葉植物、きく)などを散布する。

「病害虫発生予察注意報第1号「シロイチモジヨトウ」
もご参照ください。



[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R5th/chuuihou/2308_chuuihou01\(shiroichimojiyotou\)_soshin.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R5th/chuuihou/2308_chuuihou01(shiroichimojiyotou)_soshin.pdf)

野菜・花き類：
シロイチモジヨトウ

幼虫

野菜・花き類：
コナジラミ類

退緑黄化病(きゅうり)の症状※

特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、トマトではタバココナジラミは吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬、きゅうりではCCYV(ウリ類退緑黄化ウイルス)の伝搬等、様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病などのウイルス病は、感染すると株ごと除去する以外に対策がないため、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ ベネビアOD(トマト、きゅうりなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

次回の情報は10月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（10月②）

バラ科果樹： クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫

成虫

特徴

- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。4月から10月にかけて中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、見つけにくいがこの時期の防除が効果的。

防除のポイント

- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫は見つけしだい捕殺する。



▲詳しくはこちら

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R5.3改訂版)」についてもご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2303.pdf

かんしょ(さつまいも)： 基腐病



被害株の葉の変色

特徴

- ◆ かび(糸状菌)の一種が原因。
- ◆ 葉が黄変・萎凋したり、茎の基部が暗褐色～黒色に変色する。
- ◆ 進行すると茎葉が枯死したり、いもが腐敗する。

防除のポイント

- ◆ 排水不良により発生しやすいので、ほ場の排水対策を徹底する。
- ◆ ほ場を定期的に見回り、発病株の早期発見に努める。
- ◆ 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分するとともにアミスター20フロアブル、トリフミン水和剤などを散布する。



▲詳しくはこちら

「新規侵入病害 サツマイモ基腐病について(R4.10.31発行)」についてもご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/motogusare/satsumaimomotogusarebyou_siryou.pdf

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(10月)

水稲

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲 (収穫後防除)		ジャンボタニシ(スクミリングガイ)				

果樹類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう (収穫後防除)		べと病、褐斑病、ブドウトラカミキリ				
もも (収穫後防除)		せん孔細菌病、シンクイムシ類				
バラ科果樹		発生に注意: クビアカツヤカミキリ				
みかん			黒点病			
				そうか病		
			ミカンハダニ			
果樹類全般			果樹 カメムシ類			

野菜類

※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす					うどんこ病	
				アザミウマ類		
きゅうり			べと病			
			うどんこ病			
			褐斑病			
			ウリノメイガ			
			ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病の発生に注意)			
					コナジラミ類 (退緑黄化病の発生に注意)	
ねぎ		発生に注意:葉枯病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
かんしょ (さつまいも)		発生に注意: 基腐病				

野菜類・花き類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類					シロイチモジヨトウ	
					ハスモンヨトウ	
			コナガ			
				オオタバコガ		
				アブラムシ類		
						コナジラミ類

水稲(収穫後防除)

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



成貝



卵塊

防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。

注)成貝の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう！」はこちら

<http://www.ippn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

ぶどう(収穫後防除)

べと病



葉裏の症状



葉表の症状

特徴

- ◆ 雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら**オロンデイスウルトラSC**、**ライメイフロアブル**などを散布する。

褐斑病



被害葉



被害葉(拡大)*

特徴

- ◆ 米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア、バッファローなどに発生が多い。
- ◆ 多発すると早期落葉する。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、**オンリーワンフロアブル**、**ネクスターフロアブル**、**フルーツセイバー**などを散布する。

ぶどう(収穫後防除)

ブドウトラカミキリ



成虫*

特徴

- ◆ 幼虫が枝の内部を食い進み、被害を受けた部分は黒くなる。糞は外に排出しない。

防除のポイント

- ◆ せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 収穫後にモスピラン顆粒水溶剤等を散布する。

もも(収穫後防除)

せん孔細菌病



発病枝(夏型枝病斑)

特徴

- ◆ 落葉痕部や枝の組織内で越冬する。

防除のポイント

- ◆ 薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。
- ◆ 収穫後も被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 多発する場合は、9月上旬～10月上旬頃にICボルドー412等を2週間間隔で計3回散布する。

シンクイムシ類



被害果



被害枝

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 雨が連続すると発生が増加する。
- ◆ 葉、枝、果実に感染して、微小な黒色、円形の病斑ができる。

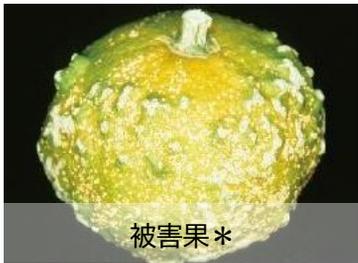
防除のポイント

- ◆ 伝染源となる枯枝は除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン水和剤・ベンコゼブ水和剤などを散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。

※注意！

みかんでは使用時期が「収穫30日前まで」なので使用時期に注意する。
また、皮膚のかぶれに注意する。

そうか病



被害果*



被害葉*

特徴

- ◆ 降雨時間が長いと発病が多い。
- ◆ 葉、果実の表面に、直径1ミリ前後に隆起する「イボ型」や「そうか型」の病斑ができる。
- ◆ 果実の外観が悪くなり、糖が少なく、酸が多くなるなど品質が低下する。

防除のポイント

- ◆ 被害葉・被害果は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 窒素質肥料の過用を避ける。
- ◆ 排水、通風を良好にする。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 気温が高く、降水量が少ないと発生が多くなる。
- ◆ 葉に体長0.5mmの赤色のダニが寄生して吸汁する。被害部分は色が抜けて白くなる。
- ◆ 果実に寄生すると着色が遅れ、色がぼけて商品価値が低下する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤は、葉裏にもかかるように十分量を散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jpnp.ne.jp/osaka/\)](http://www.jpnp.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるので、散布前に必ずラベル等で確認する！

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、アディオソニル乳剤(かんきつ、もも、かきなど)、スタークル顆粒水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤(かんきつ、もも、かき、ぶどう、なしなど)等を散布する。

野菜

なす

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ(葉・果実)やミカンキイロアザミウマ(葉・主に水なすの果実)による被害が大きい。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、アフアーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブル、ダブルシューターSEなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草は増殖場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

きゅうり(施設抑制栽培)

べと病



被害葉

特徴

- ◆ 気温20～24℃で発生が多い。
- ◆ 下位葉に葉脈で囲まれた黄色角形の病斑ができ、上位葉へ拡大する。

防除のポイント

- ◆ 排水を良好にし、過湿を避ける。
- ◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- ◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤等を散布する。発生を認めたら、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等を散布する。

うどんこ病



被害葉*

特徴

- ◆ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- ◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- ◆ はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にする。
- ◆ 被害葉を除去し、通風を良くする。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤やフルピカフロアブル等を散布する。発生を認めたら、アフェットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。

褐斑病



病斑

特徴

- ◆ 高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。
- ◆ 天井フィルムからの結露水のポタ落ちで発病が助長される。
- ◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の5～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

- ◆ ハウス内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- ◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤、ダコニール1000等を散布する。発生を認めたら、カンタスドライフロアブル等を散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jpnp.ne.jp/osaka/\)](http://www.jpnp.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

きゅうり(施設抑制栽培)

ワタハリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫*

特徴

- ◆ 施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ 幼虫は葉をつづり合わせ、その中で葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ 生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆ 施設の開口部を寒冷紗(2mm目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ 発生初期にベネビアOD、プレバゾンフロアブル5、デルフィン顆粒水和剤等を散布する。

ミナミキイロアザミウマ(黄化えそ病)



ミナミキイロアザミウマ被害葉※



黄化えそ病被害葉※

特徴

- ◆ アザミウマの発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ キュウリ黄化えそ病※1等の原因ウイルスを媒介する。
- ◆ MYSVIに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。

※1:メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病。きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ ミナミキイロアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、アファーム乳剤、バストガード水溶剤等を散布する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外に持ち出し処分する。

コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)



コナジラミ類成虫*



退緑黄化病被害株※

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病※2の原因ウイルスを媒介する。
- ◆ CCYVIに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆ キュウリ退緑黄化病と黄化えそ病は見た目で見分けることは困難である。

※2:ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病。きゅうり、メロン、すいか等に感染する。

防除のポイント

- ◆ コナジラミの発生を認めたら、ベネビアOD、コルト顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 退緑黄化病は、CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要。
- ◆ 発病株はほ場外に持ち出し処分する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jpnp.ne.jp/osaka/\)](http://www.jpnp.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ねぎ

葉枯病



葉の病斑

特徴

- ◆ 糸状菌(カビ)の一種が原因で発生する病害。
- ◆ 黒斑病と症状が似ており、区別が難しい。
- ◆ 病斑は紡錘形～楕円形で褐色。また、黒色のかびが発生する。

防除のポイント

- ◆ 被害株はほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- ◆ 発生を認めたら、アミスター20フロアブル、パレード20フロアブルなどを散布する。

ネギハモグリバエ



葉の食害痕

特徴

- ◆ 葉の内部を幼虫が食い進み、その痕が細長く白い筋になる。
- ◆ 新系統が発見されており、従来に比べて一葉あたりの幼虫数が多く、集中的に葉肉を食害するため、葉が白化したようになる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、系統に関わらず、「ハモグリバエ類」、「ネギハモグリバエ」に適用のあるグレースシア乳剤、アファーム乳剤などにより、発生初期の防除を徹底する。



▲新系統について詳しくはこちら

ネギアザミウマ(えそ条斑病)



えそ条斑病の葉の病斑



ネギアザミウマ

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、グレースシア乳剤、プレオフロアブル、スミチオン乳剤等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.ippon.ne.jp/osaka/\)](http://www.ippon.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜類・花き類

※作物毎に登録内容が異なるので、散布前に必ずラベル等で確認する！

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤(さといも、オクラ、豆類(未成熟)など)、ディアナSC(かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど)、コテツフロアブル(さといも、オクラ、花き類・観葉植物など)、プレバソフフロアブル5(さといも、なす、ピーマンなど)等を散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf



コナガ



幼虫 ※



成虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、アクセルフロアブル(非結球あぶらな科葉菜類など)、ディアナSC(非結球あぶらな科葉菜類など)等を散布する。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど)、アドマイヤー顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、さといもなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、花き類・観葉植物など)、ウララDF(なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、さといもなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

オオタバコガ



幼虫



卵

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソフフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、スピノエース顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、きくなど)、プレオフロアブル(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類・観葉植物など)等を散布する。